

タテ社会の人間関係

22211253 手束琉碧

著者 中根千枝 (なかね ちえ)

- 日本の社会人類学者でインド・チベット・日本の社会組織を専門としていました。
- 中根さんは、東京大学名誉教授であり、日本学士院会員でもありました。

本書の目的

- 人々のつき合い方や同一集団内における上下関係の意識といった、社会に内在する基本原理を抽象化した「社会構造」に着目し、日本社会の特徴を解き明かすことである。
- 日本人の集団意識は「場」におかれている。

6章 選んだ理由

- この章を読んで、共感できるところとそうでないところがあったので選びました。

6章 リーダーと集団の関係

- 日本のリーダーは、どんなに能力があっても、自由に組織を動かすことはできない。
- リーダーより部下の力が強い。
- リーダーは集団の一部にすぎない。
- 上に立つものはバカでもいいことになる。むしろ上の者はバカの方がよく、上の者ができすぎると子分の存在理由が減ってしまう。天才的な能力よりも、人間に対する理解力・包容力を持つことの方がリーダーの資格に重要である。
- リーダーには最年長がつくことが多い。

感想

- 1967年に出版された本ですが、当時からそれほど変わっていないように思いました。
- リーダーには個人の能力が重視されるのではなく、人間的な情、包容力が重視されることが分かりました。
- 日本の集団ではリーダーシップが集団全体によって制限されていて、リーダーより部下の力が強いことが分かりました。
- リーダーより部下の力が強い自分は、違うのかなと思いました。